解析事例；津波浸水遡上解析

■概要

・非線形長波理論モデルより波源域から陸域にかけて津波計算を実施
・多段式モデルで遡上対象域付近を細かいメッシュサイズで表現可能

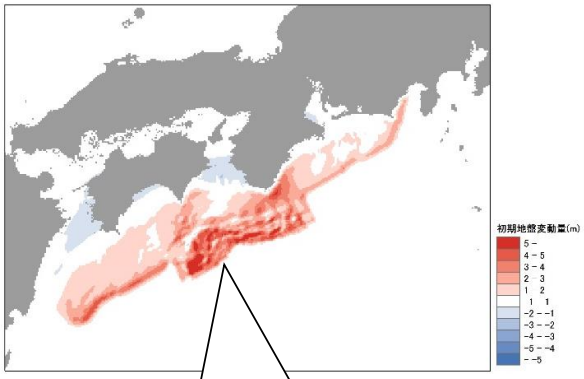
■条件

海域の水深、陸域の標高、波源条件(初期水位)、構造物高さデータ、陸域の粗度係数、
対策条件(構造物配置・嵩上げ）など

■解析

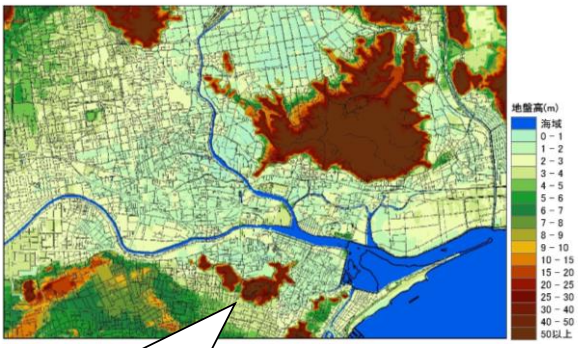
●解析条件

波源データ（初期水位条件）



地震発生時の地殻変動によって沖合の水面が隆起、陸域では沈下する現象が発生

水深・地盤高データ(遡上対象域)

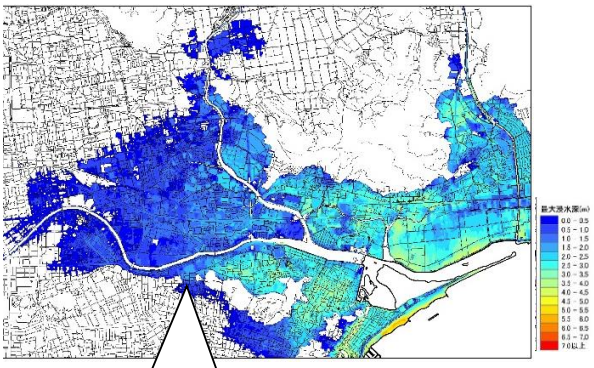


陸上の地盤高情報を設定し、海域からの浸水遡上計算を実施

●結果イメージ：津波浸水遡上シミュレーション

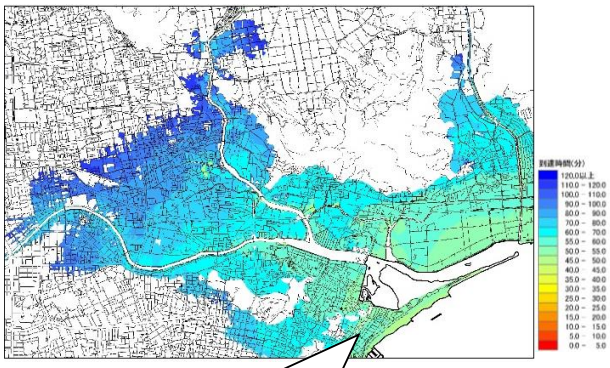
<u>解析結果より、浸水被害状況や危険性を把握</u>

最大浸水深分布



地震発生後の津波浸水範囲を出力

津波到達時刻



地震発生後の津波浸水開始時刻を出力

■事例

○津波浸水被害想定区域の基礎資料として活用
○浸水分布図と地図情報を重ねて、浸水被害状況を把握
○津波対策(堤防強化)の事業効果予測が可能
○避難シミュレーションに活用

応用技術株式会社
APPLIED TECHNOLOGY CO.,LTD.

お問い合わせ
応用技術株式会社　エンジニアリング本部
メール：kaiseki@apptec.co.jp